

エネルギー・ゼミ 暮らしのミカタ、 未来のミカタ。

知っているようで知らない、
暮らしとエネルギーの関係を
分かりやすく解説します。



えっ、私たちの給与は下がり続けている!?

「電気が幸せを作る」と言うと、「なぜ?」と思う方も多いと思いますが、それは安定的で安価な電気が日本経済を元気にし、その結果、私たちの暮らしが豊かになるからです。順を追って説明しましょう。

かつては豊かだった日本。現在は?

20年以上働いている方は気がついているかもしれません、日本の民間の平均給与は15年間以上だんだんと下がってきてます。もちろん平均値なので「私の給与は上がっているよ」という方もいらっしゃるでしょうが、1997年の平均給与(年収)467万円が2012年には408万円になっています。デフレで物価も下がっていることを考慮しても、実質的に給与は10%下がりました。1990年代のバブル崩壊後、日本経済が不調だったために、働く人への分配が少なくなったからです。

私たちの給与は、経済活動の中で産み出された付加価値額(GDP・国内総生産)から支払われます。この額は1994年には日本が世界3位でした。しかし今は13位になってしまいました。ちなみに、今アジアでもっとも1人当たりのGDPが高く、豊かな国であるシンガポールは、20年前の1994年には日本の半分でした。(図-1)

今回のテーマ

「電気が幸せを作る」って どういうこと?

今回が山本先生の最後のゼミとなりますね。山本先生は「電気が幸せを作る」とおっしゃっています。確かに電気は私たちの暮らしになくてはならないものですが、「幸せを作る」と言われると、よく分かりません。電気と私たちの暮らしとの関わりについて、教えて、山本先生!



える子さん 山本先生

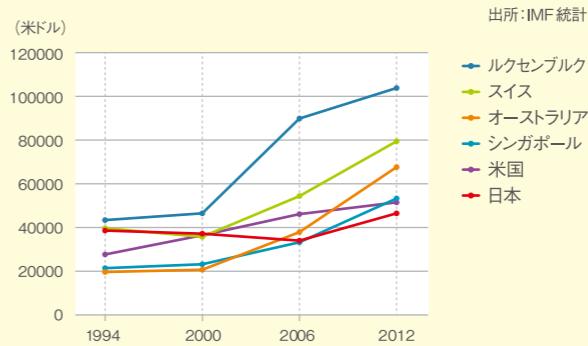
日本の将来は電気料金が鍵

日本の低迷の原因は製造業が元気をなくしたことです。製造業には物流業など関連業界も多く、影響は広範囲に及びます。1980年代に米国は、日本からの自動車、家電の輸入を防ごうと躍起になったことがありました。日本の製造業の付加価値額が米国を追い抜く寸前まで迫ったからです。しかし、1990年代に入ってきたから日本は米国に徐々に引き離され、一方でかつては同じ水準で、1980年代から差を広げていたドイツには、迫られる状況になってきました。(図-2) 日本はデフレで物価が下がる状況で収入は減りましたが、借入金の返済金は減りません。このため多くの企業は設備投資より借入金の返済を優先させ、もの作りの力が落ちてきたと言えます。

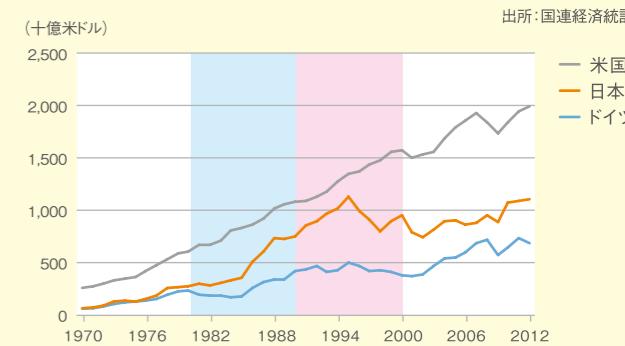
この間、かつては世界各国と比べて高いと言われた日本の電気料金は、制度改革などによって下がり続けてきました。東日本大震災前には世界でも見劣りしない安さとなっていた日本の電気料金。ここが日本の将来を考える鍵となります。



(図-1) 約20年間の1人当たりのGDP(国内総生産)の推移



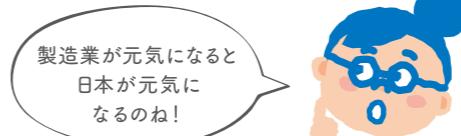
(図-2) 日米独の製造業のGDP(国内総生産)の推移



豊かな暮らしになるには 何が必要なの?

製造業が元気になることが重要

製造業が元気になることが、経済状況が良くなり私たちの給与が上昇するための条件です。前号のエネルギー・ゼミでも触ましたが、震災後、原子力発電の停止や燃料費増大などにより、多くの電力会社(北陸、中国以外)が行った電気料金の値上げは、私たちの生活にはもちろん、製造業にも大きな影響があります。製造業が元気になるためには安定的で安価な電力供給が必要なのです。欧米諸国も、国民の生活と産業の競争力を考えて、電気を安定的に安価に供給するために腐心しています。



製造業が元気になると
日本が元気になるのね!

電力供給のもうひとつの問題とは
安定、安価に加え電力供給に関して、多くの国がもうひとつ重要な点があります。地球温暖化を防ぐための発電の方法です。火力発電所で石炭、石油、天然ガスを燃やすと地球温暖化を招く二酸化炭素を排出します。できるだけ二酸化炭素を排出しない発電も重要なことです。

米国、英国を含め多くの国が、安定、安価、環境の3条件を満たす発電として原子力が重要と考え、原子力発電所の新設を選択しています。もちろん安全が大前提ですが、英國政府関係者は、「原子力発電がないことのリスク」を考え、新設の決断をしたと述べていました。つまり、原子力発電がない場合、安定的で安価な電力供給と、温暖化対策にも問題が生じると判断したのです。日本でも2014年4月のエネルギー基本計画で原子力発電の必要性が述べられていますが、その理由は、安全を大前提とした安定、安価、環境にあると言えます。電気をどう供給するか、その影響がどう広がるのか、皆がよく考え決めていくことが大事です。



まとめ

- 先の見えない日本の経済状況、低迷する製造業、下がり続ける給与…。日本の置かれた状況には不安要素がたくさんあります。
- この先の日本がどうなっていくのか、私たちの暮らしが豊かになるかどうかの鍵を握るのは「これから日本のエネルギーのあり方」です。安全を大前提に、安定的で安価な、そして環境にやさしい電気の供給の実現が、日本経済を元気にし、私たちの幸せな暮らしにつながります。私たちの暮らしを支えるエネルギー問題について、これからもしっかりと考えていきましょう。

山本 隆三

Yamamoto Ryuzou
常葉大学 経営学部 教授



1951年生まれ、京都大学卒。住友商事、ブール学院大学教授を経て2010年4月から現職。現在、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)「技術委員」、日本商工会議所「エネルギー・原子力政策研究会委員」などを務め、報道番組出演や著作発表を通じてエネルギー・環境政策に関する言論活動も活発に行っている。